

Ⅲ 一～五類全数把握感染症

一～五類全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は大阪府では、発生はなかった。全国では第 29 週にワクチン株由来の急性灰白髄炎の報告が 1 例あったが、平成 24 年 6 月発症の事例であった。尚、結核については、下記ホームページを参照されたい。

(財) 結核予防会結核研究所 疫学情報センター : <http://jata.or.jp/rit/ekigaku/>

(文責：中川)

3. 三類感染症

●コレラ

平成 25 年のコレラの発生はなかった。平成 24 年の届出数は 1 例であった。

●細菌性赤痢

平成 25 年の細菌性赤痢の届出数は 12 例であり、平成 24 年の 29 例に比べ減少した。

菌種別では *Shigella dysenteriae* (A 群) が 1 例、*S. flexneri* (B 群) が 1 例、*S. sonnei* (D 群) が 10 例であった。推定感染地域は、インドネシアが 4 例、インドが 3 例、ベトナムが 1 例、ウズベキスタンが 1 例、国内が 3 例であった。

●腸チフス

平成 25 年の腸チフスの届出数は 2 例であり、平成 24 年の 1 例より、1 例増加した。推定感染地域はインドが 1 例、インドネシアが 1 例であった。

●パラチフス

平成 25 年のパラチフスの届出数は 4 例であり、平成 24 年の 4 例と同数であった。推定感染地域はインド (2 例)、ベトナム (1 例)、ミャンマー (1 例) であった。

コレラ																											
週 府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
大阪府																											
大阪市																											
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
合計																											

細菌性赤痢																											
週 府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
大阪府																											
大阪市		1													1						1						
堺市																										1	
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
合計		1													1						1						1

腸チフス																											
週 府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
大阪府																											
大阪市																											
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
合計																											

パラチフス																											
週 府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
大阪府																											
大阪市												1															
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
合計												1															

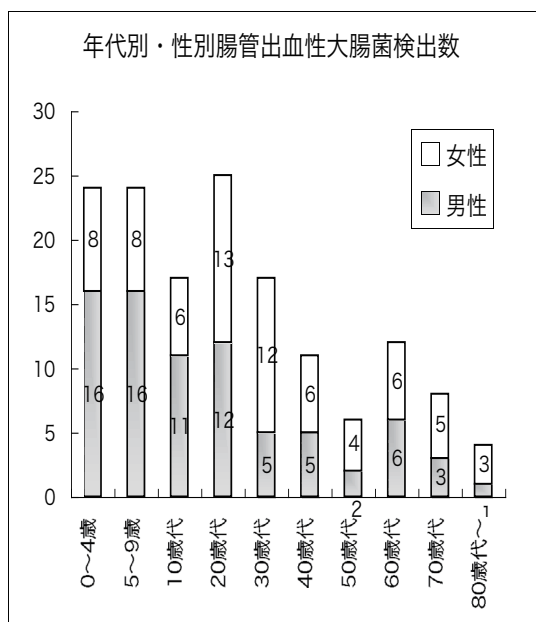
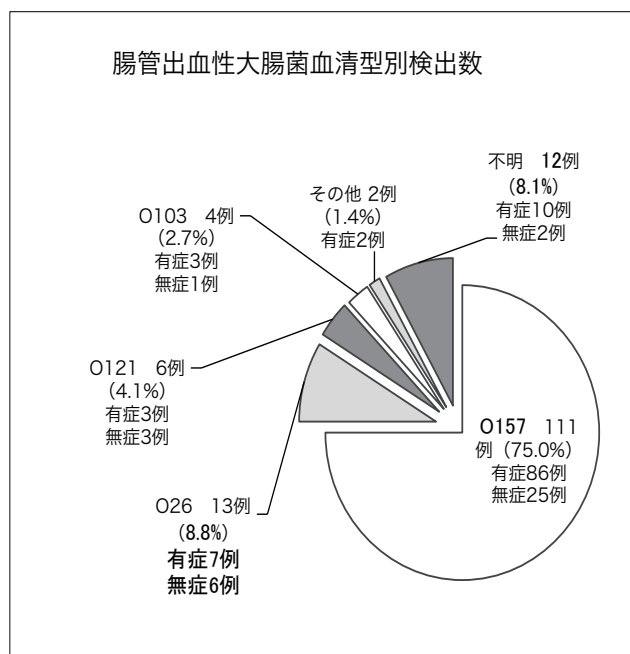
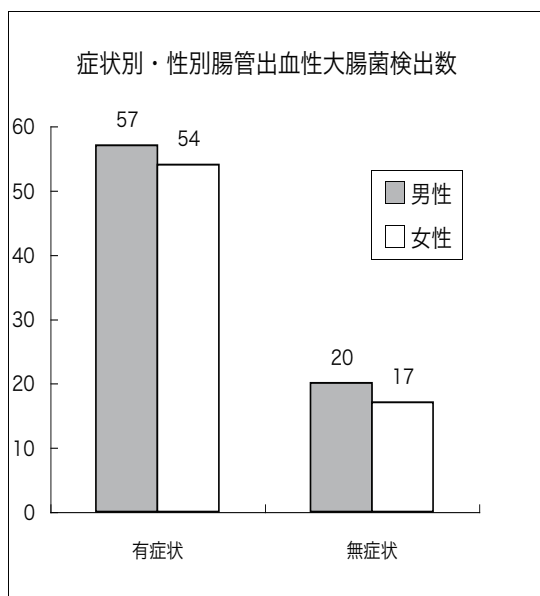
腸管出血性大腸菌感染症																											
週 府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	
大阪府				1		2															1		1		1	1	
大阪市					1									1	1					2	1		3	2	2		
堺市																											
高槻市																							1	1	1		
東大阪市																									1		
豊中市																											
合計				1	1	2								1	1					3	1	2	4	5	3		

●腸管出血性大腸菌感染症

平成25年の腸管出血性大腸菌感染症の届出数は148例であり、平成24年の届出数249例に比べて減少している。

血清型別ではO157が111例(75.0%)、O26が13例(8.8%)、O121が6例(4.1%)、O103が4例(2.7%)、その他が2例(1.4%)、不明が12例(8.1%)であった。そのうちHUS発症例は10例(6.8%)であった。

また、症状別では有症状者が111例(75.0%)、無症状病原体保有者(以下、無症状者)が37例(25.0%)であった。血清型別有症・無症状者数はO157では有症状者が86例(58.1%)、無症状者が25例(16.9%)、O26では有症状者が7例(4.7%)、無症状者が6例(4.1%)、O121は有症状者が3例(2.0%)、無症状者が3例(2.0%)、O103は有症状者が



3例(2.0%)、無症状者が1例(0.7%)、血清型不明では有症状者が10例(6.8%)、無症状者が2例(1.4%)であった。その他の有症状者は2例(1.4%)であった。

性別では、男性77例(52.0%)、女性71例(48.0%)であった。

症状別・性別菌検出者数は有症状者(111例)では男性57例(38.5%)、女性54例(36.5%)、無症状者(37例)では男性20例(13.5%)、女性17例(11.5%)であった。

月別患者・保菌者届出数をみると、3月のみ届出がなかった。多い順に、8月の52例、9月の27例、次いで10月の20例で、この3か月で全体の66.9%を占めている。

都道府県別でみると、届出数の多い順に東京都、神奈川県、愛知県、福岡県となっている。

(大阪市)

4. 四類・五類感染症(全数把握分)

平成25年における四類・五類感染症の届出数は、27疾患3,990例であった。平成24年の22疾患977例に比べると、疾患数で5疾患の増加であり、届出数は3,013例(308.4%)の増加であった。

四類感染症の届出数は9疾患125例であった。前年に比べ疾患数で1疾患の増加であり、前年届出の無かったチクングニア熱、つつがむし病、日本紅斑熱が各1例の届出があった。また、前年届出があったエキノкокクス症、オウム病については届出が無かった。届出数は15例(13.6%)増加した。増加した疾患のうち、レジオネラ症は64例の届出があり、前年の56例に比べ8例(14.3%)の増加であった。A型肝炎は18例の届出があり、前年の12例に比べ6例(50.0%)の増加であった。減少した疾患のうち、E型肝炎は1例の届出があり、前年の5例に比べ4例(80.0%)の減少である。

五類感染症の届出数は18疾患3,865例であった。前年に比べ4疾患の増加であり、平成25年4月より追加された侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症がそれぞれ7例、1例、59例の届出があった。また、前年届出が無かったクリプトスポリジウム症は1例の届出があった。増加した疾患のうち、風しんは3,198例の届出があり、前年の410例に比べ2,788例(680.0%)増加である。麻しんは15例の届出があり、11例(275%)の増加である。減少した疾患のうち、ウイルス性肝炎(A型肝炎及びE型肝炎をのぞく)は23例の届出があり前年の28例に比べ5例(17.9%)の減少、バンコマイシン耐性腸球菌感染症は7例の届出で前年の14例に比べ7例(50.0%)の減少である。

四類・五類全数把握感染症届出数

類別	疾患名	届出数		大阪府内計		全国計	
四 類	E型肝炎	1	(5)	127	(119)		
	A型肝炎	18	(12)	128	(158)		
	エキノкокクス症	0	(1)	20	(17)		
	オウム病	0	(1)	8	(8)		
	回帰熱	0	(0)	1	(1)		
	Q熱	0	(0)	6	(1)		
	コクシジオイデス症	0	(0)	4	(2)		
	重症熱性血小板減少症候群	0	(0)	48	(0)		
	チクングニア熱	1	(0)	14	(10)		
	つつが虫病	1	(0)	344	(436)		
	デング熱	36	(32)	249	(221)		
	日本紅斑熱	1	(0)	175	(170)		
	日本脳炎	0	(0)	9	(2)		
	ブルセラ症	0	(0)	2	(0)		
	ボツリヌス症	0	(0)	0	(3)		
	マラリア	2	(2)	48	(73)		
	ライム病	0	(0)	20	(11)		
	類鼻疽	0	(0)	4	(0)		
	レジオネラ症	64	(56)	1124	(898)		
レプトスピラ症	1	(1)	29	(30)			
四類合計		125	(110)	2,360	(2,160)		
五 類	アメーバ赤痢	106	(85)	1047	(931)		
	ウイルス性肝炎	23	(28)	288	(235)		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎をの	29	(22)	364	(361)		
	クリプトスポリジウム症	1	(0)	19	(6)		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	10	(8)	207	(183)		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9	(7)	210	(243)		
	後天性免疫不全症候群	221	(177)	1584	(1,427)		
	ジアルジア症	12	(10)	82	(72)		
	髄膜炎菌性髄膜炎	1	(1)	2	(15)		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	(0)	108	(0)		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	(0)	23	(0)		
	侵襲性肺炎球菌感染症	59	(0)	1000	(0)		
	先天性風しん症候群	5	(1)	32	(5)		
	梅毒	158	(98)	1236	(891)		
	破傷風	3	(2)	128	(117)		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	7	(14)	55	(91)		
	風しん	3,198	(410)	14,362	(2,391)		
	麻しん	15	(4)	230	(285)		
	五類合計		3,865	(867)	20,977	(7,253)	
合計		3,990	(977)	23,337	(9,413)		

()内は平成24年のデータ

疾患名	届出数	大阪府内再掲					
		大阪府	大阪市	堺市	東大阪市	高槻市	豊中市
アメーバ赤痢	29 (36)	58 (39)	11 (5)	3 (2)	2 (3)	3 (-)	
後天性免疫不全症候群	24 (27)	185 (133)	6 (13)	1 (1)	4 (3)	1 (-)	
梅毒	25 (14)	115 (75)	12 (6)	3 (1)	3 (2)	0 (-)	
風しん	1,025(125)	1,388(207)	309 (44)	275(17)	115 (17)	86 (-)	

()内は平成24年のデータ。豊中市の24年のデータについては、4月からの集計のため掲載せず。

五類感染症の主な4疾患、アメーバ赤痢、後天性免疫不全症候群、梅毒、風しんについて、大阪府内を大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市に区分して再掲した。

アメーバ赤痢は、大阪市が39例から58例に、堺市が5例から11例に、東大阪市が2例から3例に増加し、大阪府、高槻市で減少した。後天性免疫不全症候群は、大阪市が133例から185例に、高槻市が3例から4例に増加したが、大阪府、堺市で減少した。梅毒は豊中市を除く全ての区分で増加し、中でも堺市100.0%、大阪府78.6%、大阪市53.3%の増加率であった。風しんは全ての区分で大きく増加し、平成24年の届出数の7.8倍となった。先天性風しん症候群が5例報告された。

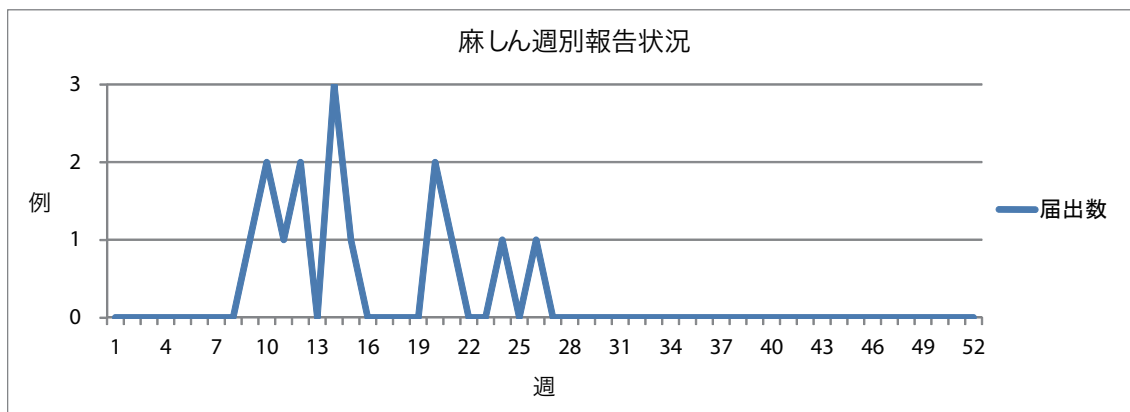
全国の平成25年における四類・五類感染症の届出数を見ると、23,337例で前年の9,413例と比べて13,924例(147.9%)の増加である。増加した主な疾患は、四類ではレジオネラ症、デング熱、ライム病で、それぞれ898例から1124例、221例から249例、11例から20例である。五類では風しん、梅毒、ウイルス性肝炎で、それぞれ2,391例から14,362例、891例から1,236例、235例から288例に増加している。減少した主な疾患は四類感染症ではつつがむし病、A型肝炎、マラリアで、それぞれ436例から344例、158例から128例、73例から48例に、五類感染症では麻しん、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症で、それぞれ285例から230例、243例から210例、91例から55例に減少している。

(文責：田中)

●麻しん

平成25年の届出数は15例であった。前年の4例に比べ11例（275.0%）増加した。ブロック別では北河内7例、豊能5例、大阪市3例である。

年齢別届出数は20歳以上が11例（73.3%）と大半を占め、次いで1歳が2例、6か月未満、10～14歳に各1例の届出があった。



麻しんブロック別・年齢別報告状況

ブロック	6か月未満	12か月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	合計
豊能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
三島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北河内	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	7
中河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泉州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
合計	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11	15

海外渡航歴のある輸入麻しん例が4例あり、遺伝子型はD8型・H1型が各2例であった。さらに、家族内感染、施設内感染、接触者感染も確認された。麻しん患者からの感染拡大防止のためワクチン接種の推奨のみならず、麻しんウイルス遺伝子検査による迅速な確定診断が求められている。

(文責：田中)